

自然の恵みと災いの地域文化： 生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の視点から

生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）という用語は近年使われだしたが、実は、日本に古くからある考え方である。伝統的な災害対応では、自然がもたらす災いがかかる場所や災いの特性をよく理解したうえで、生態系や生物多様性がもたらす豊かな恵みを失わない配慮や工夫がなされてきた。しかし、残念ながら、地域文化とも言える伝統的な災害対応は失われていく一方である。総合地球環境学研究所Eco-DRRプロジェクトによるシリーズ「地域の歴史から学ぶ災害対応」では、日本各地で今なお活躍する伝統的な災害対応の事例を収集し、現代社会における意義を分析し、地域での保全や活用の方策を検討した。

シリーズ「地域の歴史から学ぶ災害対応」
全5冊（日本語版・英語版）電子版を無料公開



自然の恵みと災いの地域文化からの学び

- 同じ自然が恵みも災いももたらす（自然の両面性）
- 恵みと災いは一体のものである（自然の不可分性）
- 恵みと災いの連関は人の心に刻まれてきた（自然の文化）

